

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1993. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 110

日本野鳥の会 埼玉県支部

水と鳥の郷

浮島誌上探鳥会

広大な霞ヶ浦の南端、〈水郷〉と呼ばれる地域のはずれに位置する浮島草原。初夏、この小さな湿原で営巣を始めるコジュリン、コヨシキリ、オオヨシゴイなどは、他ではなかなかお目にかかれない珍鳥たち。浮島ならではの鳥を訪ねて、埼玉県支部ではこの6月、探鳥会を開催します。ところが、この探鳥会は定員制、参加できるのは40名だけ。そこで、探鳥会にいけない方のために、誌上探鳥会を企画しました。本番の探鳥会よりひと足早く、太陽が輝く初夏の浮島へ、さあ、出かけましょう。

霞ヶ浦の湖岸沿いに、稲敷大橋からまっすぐ伸びた舗装道路。この道に立つと、湖を渡ってきた涼風と草原の鳥たちのコーラスが迎えてくれます。まずは、この歌声に耳を傾けてみましょう。天空から降り注ぐヒバリの歌、空の高みへ染み渡ってゆくセッカの声。水を含んだような優しい声はオオセッカ。コジュリンの短い歌がコーラスにアクセントをつけます。聴いているとワクワクしてくるオオヨシキリとコヨシキリの軽快なかけあい。さえざりといえば、やはり山の夏鳥、とお考えの方も多いでしょうが、草原の鳥たちの歌だって、なかなかのもの。捨て難い魅力があります。コーラスを十分に味わったら、今度は歌い手たちの姿を求めて歩いてみましょう。

草原のアイドルたち

浮島を代表するスター、コジュリン。この季節、雄は頭から顔まで真っ黒の夏羽になっています。どちらかと言えば出たがり屋でアシの上がお気に入りの様子。双眼鏡でざっと眺め渡せば、草原のあちこちに、あの独特な黒ずきんを見つけ出せるでしょう。ガードレールにとまって、誇らしげに歌っていることもあります。一方、雌のほうは、なかなか姿を見せてくれません。

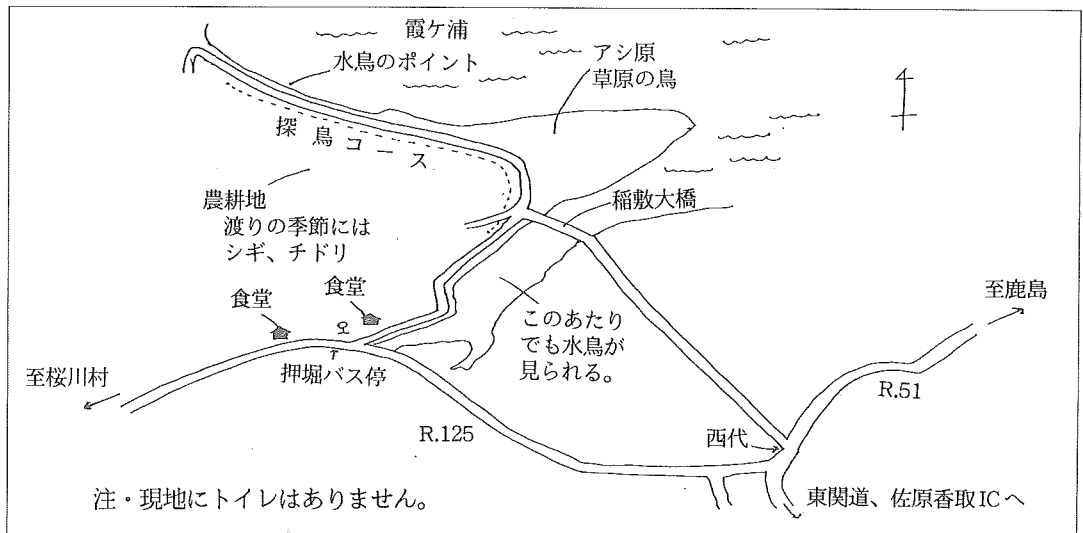
夏の水辺に欠かせないオオヨシキリ。ここ浮島でも、景気よく歌いまわっています。このオオヨシキリによく似たメロディーを、少し高く、細い声で歌っているのがコヨシキリ。その名の通り、オオヨシキリよりも小型で、しかも可愛らしい感じの小鳥ですが、オオヨシキリに負けるものかと、小さな口をいっば

いに開けて、さえざっています。

美声とともに舞い上がり、優雅に放物線を描いて、再びアシ原にもぐり込む…独特なさえざり飛行を繰り返すオオセッカ。飛んだと思うと、すぐに潜ってしまうので、姿を見るのは至難の技。どうしても見たい、という方は、じっくりねばって下さい。オオセッカの浮島デビューは数年前。利根川下流に住んでいるものが生息範囲を広げつつあるのかもしれない。このまま浮島のレギュラーとして、定着してほしいものです。全国的にみても生息地が限られており、保護が必要な珍鳥であることは、昨年的小鸟ソングでご存じでしょう。

浮島の歌手たちにひと通り会えたら、ちょっとひと休み。アシ原の向こうに広がる湖をぼんやり眺めていると…出た！アシ原すれすれに低く、ゆったりと飛んでくるのはヨシゴイでしょうか、それとも大物・オオヨシゴイ？ 識別ポイントは翼のパターンの濃淡ですが、それを確認するまもなく、またアシ原に隠れてしまいます。運が良ければ、彼らの擬態（敵の目をあざむくために、首を上方に向けて長く伸ばし、アシのものまねをする行動）が見られることも。この擬態、私達からみれば奇妙でユーモラスな行動ですが、やっている方は不安と恐怖でおののいているのです。その原因は、私たちなのかもしれません。擬態に出会ったら、少し離れてやるぐらいの優しい気持ちを忘れないで下さい。

アシ原が途切れたところで、湖面に目を移してみましょう。ここにも鳥がいろいろ、カイツブリ、バン、オオバン、杭の上で羽を休



めているのはゴイサギ、ユリカモメ、アジサシ類。霞ヶ浦ではアジサシ類に要注意。おなじみのコアジサシのほか、時には珍鳥・クロハラアジサシ、それも美しい夏羽が見られるかもしれません。

コースガイド

草原の鳥、水辺の鳥を満喫したところで、浮島をより楽しむためのアドバイスをいくつか…。まず探鳥コースですが、メインの道はここで紹介した堤防上の一本道だけ。この道を気の向くまま、鳥に誘われるままに行きつ戻りつするのがベスト。オオヨシゴイやオオセッカをねらうなら、適当な場所にすわり込んで、ひたすら待つことです。この際、車には充分ご注意ください。堤防の南側の農耕地でも、コジュリン、オオヨシゴイが見られますが、農作業の邪魔にならないように気をつけて歩いて下さい。あぜ道には入り込まないほうがよいでしょう。また、湿原に踏み入って、写真をとっている人もいるようですが、これも困りもの。アシ原の中には鳥たちの巣がいっぱい、そして親鳥が命がけで巣を守っているのです。そんな親鳥たちをおびえさせるようなことは、やめてもらいたいものです。

最後にプラスアルファのお楽しみをひとつご紹介しましょう。押堀バス停付近に2～3軒、食堂があります。堤防へ出る前に、こういった店に寄り、霞ヶ浦名物のワカサギのフ

ライをテイクアウト用に包んでもらいます。あとはギンギンに冷えた缶ビールを調達して準備OK、いざ、浮島へ。草原の鳥のコーラスを聴き、ヨシゴイ、オオヨシゴイの飛翔を眺め、ワカサギを肴にビールをゴクリ！この幸福感！アルコールがきらいでない方には絶対おすすめ。ただし、この幸福を味わえるのは、当然のことながら、次の場合に限られます：1、電車・バスで来たとき。2、車で来た場合は、どんな猛暑であっても冷たいビールの誘惑に負けない、強い意志を持った運転手が同行しているとき。

浮島への交通

JR成田線佐原駅から江戸崎行きバスに乗り、押堀下車。徒歩約30分。バス時刻の問い合わせはJRバス霞ヶ浦線 (TEL 0298-21-5234)。

車の場合は、東関東自動車道佐原香取インターから国道51号線に出て西代で左折、農道にはいり、稲敷大橋を渡って右折。国道125号線押堀からの道は狭くて、見通しの悪い所があります。現地には駐車場として整備された場所はありませんが、稲敷大橋下に数台とめられます。車で来たら、ついでに小見川まで足をのばしてみても？浮島から約30分。オオセッカ、コジュリンのほか、4月中旬～5月上旬にはチュウシャクシギの大群が見られます。

(小林みどり)

1993年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

1月15日、県内一斉ガン・カモ・ハクチョウ類調査が実施されました。当日は本州南岸の低気圧による成人の日としては20年ぶりの雨にたたられた寒い日でした。今年も狭山湖と昭和池については会員の方々の参加をいただき、他地区はそれぞれ調査員をお願いし、県内で19ヶ所、33名の方のご協力を得ました。

調査地毎の1993年カウント結果と1982年からの合計値の推移(表)と1982年からの県内集計数の推移(図)を示します。今年にはマガンとスズガモが記録されました。図において、1989年新たに完成した渡良瀬川遊水池・貯水池を除いた1990年調査地を対象とした集計値は、今年には昨年にくらべてかなり減少しており、1985年をピークとする減少傾向が続いています。渡良瀬を含めた県内全集計値も昨年に比べて減少し、調査地点の増加の影響を除くため1990年調査地について比較すると、やはり減少の傾向を示しています。

調査に参加いただいた皆様、ありがとうございました。
(執筆 三田長久)

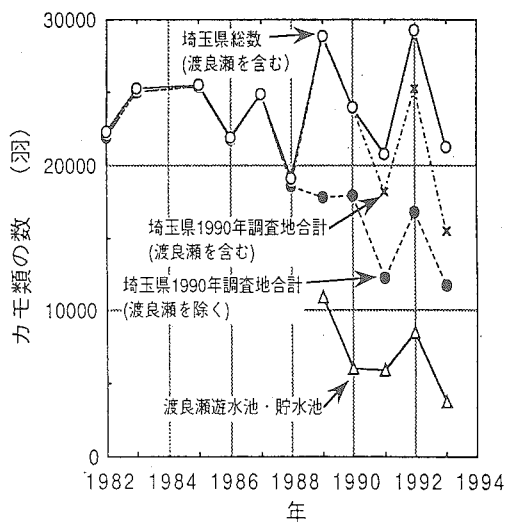


図 カモ類の合計値の年変化

表 1993年カウント調査結果と過去の合計数の推移

調査地	入間川	荒川				吉利根川	利根川	渡良瀬川	狭山湖	小群川調整池	百穴湖	武蔵丘陵森林公園	大沼公園
調査範囲	豊水橋～新富士見橋	荒川鉄橋～戸田橋	道満(荒川第一調整池)	秋ヶ瀬橋～羽根倉橋	荒川大橋	舟橋～	坂東大橋	遊水池 貯水池			大沼	山田大沼 など	大沼
地域	狭山市	川口市 戸田市	戸田市	浦和市	江岸町 熊谷市	越谷市 松伏町	本庄市	北川辺町	所沢市	川越市	吉見町	滑川町	江岸町
マガン					61		1						
コハクチョウ												3	
オシドリ												2,180	
マガモ			138	17	438	4	277	791	214	21	466		
カルガモ	60	38	16	10	125	66	348	909	54	23	5	474	55
コガモ	70	107	423		715	146	255	59	256	130	62	104	2
トモエガモ							2					1	
ヨシガモ							2						1
オカヨシガモ				7			26						48
ヒドリガモ							34	221		112			
アメリカヒドリ			37	190		181							
オナガガモ	28	409	132	31	547	183	274	73		110	10	90	
ハシビロガモ	4		96	4	1	5	28	4			92		
ホシハジロ	2	129	161	72			2				18	44	7
アカハジロ													
キンクロハジロ									4		23	3	
スズガモ	4	29	41	1									
ホオジロガモ					1								
ミコアイサ		1	66				2	2					
カワアイサ							24	5					
カモSP								1,649					
種類合計	7	7	10	6	8	6	13	8	4	5	7	8	5
調査者数	170	750	1,270	135	1,889	585	1,275	3,713	528	396	676	2,899	113
1982年合計	—	1,831	—	724	408	362	—	—	4,709	—	445	7,897	—
1983年合計	—	2,223	—	770	339	470	—	—	6,449	78	168	8,323	—
1985年合計	—	903	—	—	133	—	6,284	—	4,017	—	—	6,065	—
1986年合計	—	955	—	1,317	37	—	1,763	—	2,955	—	2,131	6,418	—
1987年合計	—	741	—	500	24	729	3,210	—	3,170	—	2,048	6,814	—
1988年合計	—	712	—	543	457	718	3,483	—	1,692	—	965	3,367	—
1989年合計	589	467	—	625	162	469	3,148	10,890	664	—	627	3,375	—
1990年合計	332	930	—	305	—	638	1,400	6,110	1,071	702	1,453	4,900	—
1991年合計	433	227	1,019	28	772	497	2,136	5,879	1,132	—	486	2,786	230
1992年合計	250	1,045	966	98	1,713	605	2,367	8,486	861	716	1,276	4,590	225

ダイシャクシギ チュウシャクシギ コシャクシギ

今までの講座では、英名の方がそのものズバリの表現で、和名より分かりやすいというものの方が大部分でした。ところが、今回の3種はどう見ても和名の方に軍配が上がります。

- ダイシャクシギ — Curlew
- チュウシャクシギ — Whimbrel
- コシャクシギ — Little Whimbrel

和名は単純にあの長いくちばしを“杓”に見立て、それを大、中、小とその長さによって分類したもので、いたって簡単明瞭。しかもズバリその特徴をとらえています。

- ダイシャクシギ — 大杓鷗
- チュウシャクシギ — 中杓鷗
- コシャクシギ — 小杓鷗

鳥の名は、和名でも英名でも一種の専門用語であり、バードウォッチャーでない普通の人にとっては、まったく不可解な記号としか思えないものも多くあります。試しに、あなたのおまわりの「普通」の人に、ミサゴ、ツ

ミ、サシバ、ノスリ、またはハチクマが何であるか聞いてみると、おもしろい結果が出るでしょう。

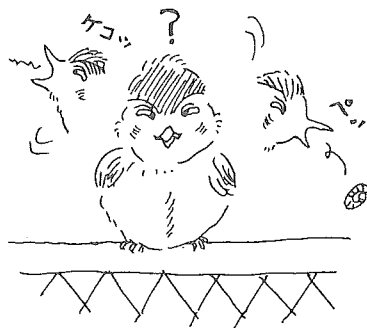
私も、このCurlewとWhimbrelについて、普通のアメリカ人にテストしてみたたら、「全然分からない」が圧倒的に多く、ごく一部の人が「Curlewは、ある種のトリ??」との答が出ました。バードウォッチャーは、その傍でニヤニヤ…。

くちばしは、鳥類のもっともすばらしい多目的な道具であり、武器であり、驚くことにその先端まで血が通っており、生きているのです。餌の種類により、それに適した形、大きさのものを、自由自在に駆使している姿をフィールドで観察し、時には英名も思い浮かべましょう。

次回からは、くちばし以外の特徴のあるものをひろってお話しましょう。

お楽しみに！

県立 農林公園	昭和池	さきたま 古墳	白粉沼	大宮公園	柳瀬川	1993.1.15 埼玉県 支部 総合計
芳沼	葛薺公園			ポート池	富士見橋 ～ 榮橋	
川本町	久喜市	行田市	浦和市	大宮市	富士見市 志木市	
						1
						61
						3
217	1,150	424				6,339
211	1,056	432	5		32	3,919
	653	10	15		151	3,158
	3					6
						3
13	400		2		239	1,416
	1					1
194	660	6	22		194	2,963
126	170		6		5	541
220	49		20	105	7	836
			1			1
42	32		3	12	4	198
						1
						71
						29
						1,649
7	10	4	8	2	7	19
1,023	4,174	872	72	117	632	21,291
2	7	1	1	1	3	33
—	5,672	—	13	—	—	22,260
—	6,310	—	22	134	—	25,286
—	7,940	—	134	—	—	25,476
—	6,262	—	—	—	—	21,838
—	7,630	—	—	—	—	24,866
—	7,055	—	—	—	—	18,992
—	7,823	—	—	—	—	28,839
—	5,495	—	234	158	—	24,007
556	4,290	—	51	146	—	20,779
—	4,713	—	80	185	877	29,248



親を待っていた子スズメちゃんが、青いものを吐き出しました。

あとで見ると、3cm位の青虫でした。親が飛んでくると、もう一羽と一緒にエサの奪い合いです。

親の背中に乗ったり、かわいい仕草で、見ていてあきません。

(押川 歳子)

ゴイサギ ◇4月3日午後6時20分、杉戸町中央地区の古利根川で。夕方薄暮の中を舞い降りて、テリトリーが決まっているように100~200m間隔に1羽ずつ。夜の採餌です(佐藤啓威)。

アオサギ ◇3月6日、戸田市道満調節池で23羽(陶山和良)。

アカハジロ(終認) ◇3月21日を最後に、浦和市の白幡沼から姿を消した。昨年11月24日から滞在し続けて、春分の日の翌日に旅立った(海老原美夫)。

スズガモ ◇3月10日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽(井上幹男)。◇4月5日、戸田市道満調節池で♂2羽♀1羽(駒崎政雄)。

ツミ ◇3月24日、北本市石戸宿の北本自然観察公園で♀1羽。シジュウカラをハンティングしようとして失敗。さらにもう1羽確認(佐藤進)。

サシバ ◇3月20日、寄居町男衾で4羽。旋回した後、北へ飛ぶ(田口浩司)。◇3月28日、桶川市川田谷桃源郷で1羽。「ピクシー」と声を3回聞く。近くにはハシボソガラスが3羽まつわりついていた(立岩恒久)。◇4月3日、鴻巣市糠田の神社で1羽(長島岩雄)。◇4月5日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。園内の木にとまる(鈴木啓紀)。

ハヤブサ ◇3月11日、本庄市の阪東大橋下流で成鳥1羽。下流から超低空で現れ、猛スピードで消えて行った(井上幹男)。

チョウゲンボウ ◇3月7日、杉戸町中央地区の古利根川で1羽(鈴木啓紀)。◇3月21日、杉戸町本島地区で1羽(鈴木啓紀)。

バン ◇3月6日、戸田市道満調節池で成鳥2羽、幼鳥2羽(陶山和良)。

オオバン ◇2月14日、戸田市道満調節池で成鳥2羽、幼鳥3羽(陶山和良)。

ヤマドリ ◇3月20日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽(吉原俊雄)。

コチドリ ◇3月6日、大宮市三橋の鴨川第一調節池で1羽(浅見健一)。◇3月

17日、幸手市上吉羽の中川で5羽(秋間利夫)。◇3月17日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。◇3月21日、戸田市道満調節池で13羽(駒崎政雄)。◇3月26日、大宮市宝来の畑で3羽(佐藤進)。

シロチドリ ◇3月21日、戸田市道満調節池で♂♀各2羽(駒崎政雄)。

ムナグロ ◇3月27日、大宮市三橋の鴨川第一調節池で17羽(浅見健一)。◇4月9日幸手市木立のひばりが丘球場のグラウンド内で24羽。エサをついばんでいた。(田畑孝)。

タゲリ ◇3月27日、戸田市道満調節池で3羽(駒崎政雄)。

ケリ ◇3月3日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

オジロトウネン ◇3月17日、幸手市木立の中川で2羽(秋間利夫)。

ハマシギ ◇3月18日、川越市の伊佐沼で8羽(中司隆由)。

ツルシギ ◇3月21日、戸田市道満調節池で冬羽2羽(駒崎政雄)。

セグロカモメ ◇3月22日、杉戸町中央地区の古利根川で3~5羽。このところよく見られます(佐藤啓威)。◇4月3日、浦和市下大久保鴨川排水機場で2羽(横山初夫)。

コアジサシ ◇3月25日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

シラコバト ◇3月7日、幸手市権現堂で1本の木に21羽(山岡百合子)。

カワセミ ◇3月20日、浦和市辻の佐野家の池で2羽。小魚を獲っていた(倉林宗太郎)。

アリスイ ◇3月18日、北本市石戸宿の北本自然観察公園で1羽(佐藤進)。

アカゲラ ◇3月27日、秩父市の羊山公園で♂♀各1羽(山岸昭治)。

ツバメ(初認) ◇3月18日、戸田市道満で1羽。時々池の水を飲みながら飛んでいた(横山初夫)。◇3月18日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

◇3月26日、大宮市宝来で1羽(佐藤進)。◇3月27日、羽生市の自宅付近で1羽(漆原正浩)。

◇3月27日、吹上町元荒川で1羽(栗原省二)。

◇3月27日、大井町苗間で2羽(中司隆由)。
◇3月27日、志木市の新河岸川、袋橋下流

で1羽(中司隆由)。◇3月27日、杉戸町中央地区の古利根川で1羽(佐藤啓威)。◇3月28日、桶川市川田谷で2羽(立岩恒久)。◇3月30日、幸手市中2丁目で1羽(秋間利夫)。◇4月2日、浦和市大崎で2羽(藤原寛治)。

イワツバメ ◇3月15日、熊谷市の三ヶ尻工業団地で7羽(山口輝雄)。◇3月23日、JR吹上駅上空で4羽。吹上駅には、多数のイワツバメの巣がある。(栗原省二)。◇3月27日、朝霞市岡の黒目川で4羽(田中富夫)。◇4月2日、浦和市大崎で5羽(藤原寛治)

ビンズイ ◇4月6日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。

キレンジャク ◇2月27日、春日部市牛島の自宅の庭にあるピラカンサを食べに4羽。ヒヨドリに追われて、やむなく退散(門谷直樹)。

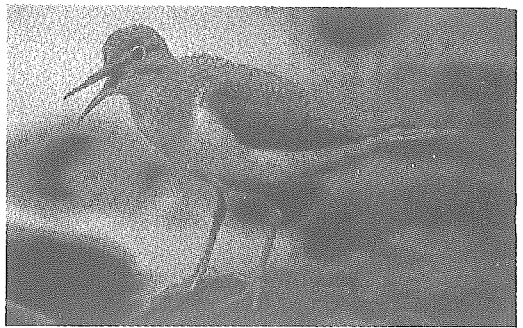
ヒレンジャク ◇3月8日、北本市石戸宿の北本自然観察公園で6羽(佐藤進)。◇4月3日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で20羽以上(新堂克浩、横山初夫)。

ミソサザイ ◇3月17日、上尾市の丸山公園のそばの溝川で1羽。肉眼で十分の至近距離に現れた(袖岡弘)。

ルリビタキ ◇3月4日、長瀬町の宝登山で♂1羽♀2羽(井上幹男)。

トラツグミ ◇3月4日、長瀬町の宝登山で1羽(井上幹男)。◇3月6日、大宮市日進1丁目で1羽(浅見健一)。

シロハラ ◇3月4日、長瀬町の宝登山で1羽(井上幹男)。◇3月5日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(横山初夫)。◇3月6日、大宮市日進1丁目で♀1羽(浅見健一)。



イソシギ(林 滋)

コガラ ◇3月4日、長瀬町の宝登山で1羽(井上幹男)。

シジュウカラ ◇4月3日、熊谷市大麻生の野鳥の森で幼鳥1羽(菱沼一充)。

オオジュリン ◇3月6日、戸田市道満調節池で2羽(二村英克)。◇3月24、25日、浦和市白幡沼のアシ原で6~7羽。毎年この頃にほんの短期間立ち寄り(海老原美夫)。

ホオアカ ◇3月14日、浦和市堤外、荒川調節池横の草原で1羽(海老原美夫)。

アオジ ◇3月28日、上尾市藤波の農家の庭でさえずる(立岩恒久)。

マヒワ ◇3月28日、浦和市鷲神社の鳥居付近で10羽(工藤洋三)。◇3月10日、深谷市の上武大橋下流で♂1羽(井上幹男)。

◇3月27日、戸田市道満で26羽(駒崎政雄)。
ベニマンコ ◇3月7日正午、坂戸市城山で♀1羽。30分後に♂1羽(増尾隆・節子)。◇3月27日、深谷市の上武大橋下流で♀2羽(井上幹男)。

ニューナイスズメ ◇3月25日、羽生市の自宅でスズメの群れの中に1羽。翌日には、19羽(漆原正浩)。

カケス ◇3月6日、大宮市日進1丁目で2羽(浅見健一)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1992 入選作

ツミ(ワシタカ科)

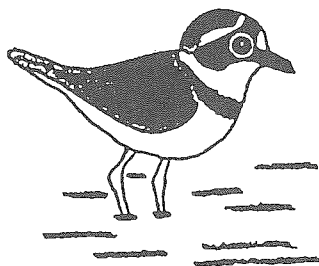
もうそろそろ巣立ちのころだと思いながら林の中に入って行くと、頭の上で声が出た。見上げると、巣立って間もないツミの幼鳥がこまったような顔をしていた。

やあ、新しい世界はどんな感じだい。

手早く何枚か写真を撮り、離れて様子を見る。母親の呼ぶ声がひびく。首をかしげて聞いてからぎこちなく羽ばたき、枝を伝わるように茂みの中に消えて行った。元気だな。がんばれよ。

海老原美夫(浦和市)

行事あんない



(佐藤方博)

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会 埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月6日（日）

集合：午前8時30分 北本観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい。駅には午前8時15分ごろまでにおいで下さい。

担当：岡安征也、榎本秀和、内藤義雄、吉原俊雄、立岩恒久、関口善孝

見どころ：春の珍客たちも去り、石戸宿に静寂が戻ってきました。若葉のこの季節、自然はどのようなマジックを準備してくれるのでしょうか？ ホトトギス、ツミ、サシバ、ヒクイナ…リーダーの祈りは天に届くか？

茨城県・浮島探鳥会（予約制）

期日：6月12日（土）

定員に達しましたので締切りました。たくさんのご応募ありがとうございます。参加される方には詳しい案内書を送付致しました。今回、参加できなかった方は、次回にご期待下さい。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月13日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:20発または寄居9:03発に乗車

担当：菱沼一充、森本國夫、林滋、関口善孝、菱沼洋子、斉藤比佐実、塚本典子、中

島章二、川島正治

見どころ：水辺の必殺人達。いぶし銀の仕事師、ササゴイ。一撃必殺師、カワセミ。華麗なテクニシャン、コアジサシ。ちょっと怖そうですが、みんな優しいパパとママ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：6月20日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、田口浩司、笠原伸子、馬場昇、岡部泰三、嶋田和江

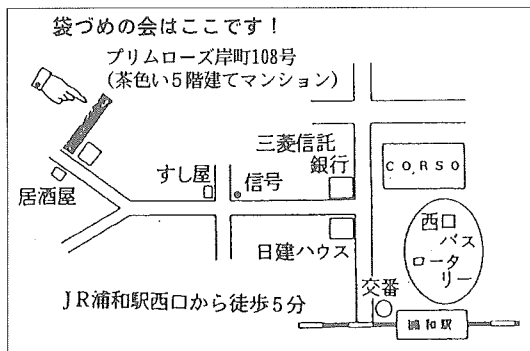
見どころ：見沼たんぼの緑がひときわ濃くなって、芝川にカルガモの子連れの様が見られる。梅雨の合間に斜面林からカッコウの声が聞こえてくる。静かな三室の里にお出かけ下さい。

『しろこぼと』袋づめの会

とき：6月26日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局（地図参照）108号室

案内：念のために言っておきますが、『しろこぼと』の袋づめとは、埼玉県支部報『しろこぼと』を、封筒に入れて会員の皆様に送ることです。保谷市の西岡さんのお父様（4月号p.5参照）のように、オソロシイ誤解をしていた方、安心してお手伝いに来て下さいね。



ろんアオバズクですが、身近な鳥たちが眠りにつく様子を観察するのも面白い。いちばん遅くまで起きているのはどの鳥かな？

注意：蚊が気になる方は、虫よけや虫さされの薬をお持ち下さい。

- 7月11日(日) 大麻生定例探鳥会
- 7月18日(日) 三室地区定例探鳥会
- 7月25日(日) 入間川定例探鳥会

野鳥写真クラブ定例会

とき：6月26日(土) 午後2時ごろ～5時
 会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

平成5年度(第9回)埼玉県支部総会

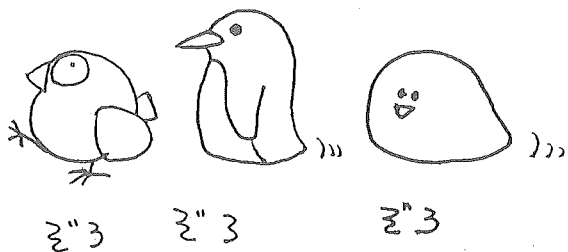
期日：6月27日(日)
 (詳しくは12ページをご覧ください)

奥日光探鳥会

期日：7月3日(土)
 集合：午前10時30分 戦場ヶ原赤沼バス停
 交通：東武線快速(浅草7:10⇒北千住7:20⇒春日部7:42)に乘車、東武日光9:12着。東武日光駅9:21発湯元温泉行きバスに乘車、赤沼下車。切符は日光フリーパスが便利。車での参加も可能です。
 担当：中島康夫、松井昭吾、福井恒人、草間和子
 見どころ：ワタスゲの白い穂がそよぎ、レンゲツツジの紅が燃え立つ戦場ヶ原で、ノビタキ、ホオアカなどを探しましょう。

上尾市・八枝神社探鳥会(夕方)

期日：7月4日(日)
 集合：午後5時30分 西上尾第2団地バスセンター(その後、現地まで歩きます。約20分)
 交通：JR高崎線上尾駅西口東武バス5番乗り場(第一勧銀前)より17:04, 17:11のバスに乘車
 担当：立岩恒久、楠見邦博
 見どころ：恒例の夕涼み探鳥会。主役はもち



高橋美保子

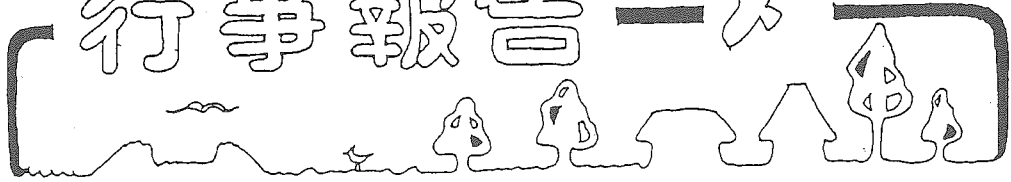
SILVER BIRDERから探鳥会へのおさそい

馬場 昇(大宮市)

人は誰でも年をとります。今は昔と違い医療が発達し高齢者が多くなりました。ところがテレビや新聞でボケや寝たきりの話が出ると悲しくなります。誰も死ぬまで健康でいて、ポックリ死にたいと思っているのです。

ポックリ寺にお参りするのも結構ですが、私は是非探鳥会に参加することをおすすめします。その理由は、何しろかなりの距離を歩きますので足腰が達者になります。鳥を見つけるためには目と耳を集中しなくてはなりませんので、老化を防ぎます。参加する回数が増えて来ますと友達も増え、見た鳥の数も増えてきます。すると何か新しい鳥を見ようと好奇心も湧いてきます。これらの事が相乗して健康を維持しボケを防ぎます。SILVER AGEの皆さん、日本野鳥の会に入り探鳥会に参加しようではありませんか。

行事報告



2月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 57人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ ノスリ コジュケイ キジ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 天気予報が外れ、5月の陽気という暖かな一日となった。集合場所近くで、常連さんとなったカワウの大編隊が出現。駐車場の奥の林では、枝にとまったノスリをじっくり観察できた。イカルもちょっぴり顔を見せてくれた。モズの“はやにえ”作成現場を見ることのできた幸運な人もいた。梅が咲き始めている。(岡安征也)

2月14日(日) 所沢市 狭山湖

参加: 35人 天気: 快晴

カンムリカイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ キンクロ ハジロ ホオジロガモ トビ オオタカ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ピンズイ ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 起床時から風が強く心配していたが、やはりこれではほとんど鳥が見られない。山口観音横でヤマガラ、狭山湖の少し手前でシロハラ、コゲラ、ウグイスをなんとか見られた。狭山湖に到着しても、すごい風でカモもほとんどいない。カンムリカイツブリも少しいる程度だが、なんとか夏羽のものも見られた。遠いところにホオジロガモを発

見したので、意を決して堤防を渡った。♂が1羽と、♀が数羽見られたが、寒いので早々に堤防を下った。少し下がった日だまりは別天地で、シメを見て終ることができた。

(三田長久)

2月20日(土) 東京都 高尾山

参加: 20人 天気: 晴

タカSP キジバト コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ミソサザイ ルリビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 風もなく穏やかな、絶好の探鳥会日和。開始早々、お目当てのルリビタキを全員で見ることができた。「この後何も出ないかもしれないので、ここで十分見て下さい。」というリーダーの心配をよそに、エナガとカラの混群をいたる所で見ることができた。そのおかげで、1号路の急な坂道もほとんど疲れを知らず。また、キジバトが20名もの観衆を恐れることなく、1~2mの距離まで近づいてきたのも印象的でした。(登坂久雄)

2月21日(日) 本庄市 阪東大橋

参加: 19人 天気: 曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ カワアイサ トビ ノスリ イカルチドリ シロチドリ タゲリ ハマシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ メジロ ホオジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ム

クドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) またまたメジロの“いってらっしゃいコール”でスタートする。用水では、オナガが水辺で乱舞。前日まで居たヤマセミの♂♀は、なぜかご不在。(がっかり!!) その上、お目当てのマガンも姿が見えず。(がっかり!!) その代わりに、カンムリカイツブリがひょっこりと現われてくれた。カワセミも同時に2羽現われ、リーダーたちの状況説明も“イスカのはしの食い違い”でゴメンナサイ!! ノスリ君もじっくり姿を見せてくれたし、カワアイサも会いたさ見たさでコース延長を決定したら、気をきかせてすぐに姿を見せてくれた。終ってみれば42種。やっぱり冬は阪東大橋……かな? (町田好一郎)

2月21日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
参加: 35人 天気: 曇

カイツブリ マガモ カルガモ オナガガモ ホシハジロ キジバト コゲラ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ アオジ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 今にも雨が降りそうな、うすら寒い天気。鳥も少なめだったが、ルリビタキはなんとか出てくれた。フクジュソウは天気の変化でつぼんでいた。帰り道で、オシドリ、キクイタダキ、トラツグミ、ヤマガラなども見られ、花盛りの梅園では、無料サービスの甘酒で体を暖めた。(森本國夫)

2月21日(日) 浦和市 三室地区
参加: 47人 天気: 曇

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ バン オオバン イカルチドリ タゲリ ハマシギ タカブシギ イソシギ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 曇空で冬らしいしっとりとした探

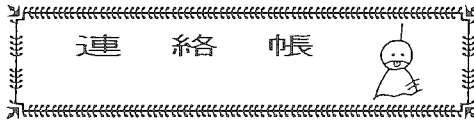
鳥会だった。アオサギ、カワウ、タゲリがゆうゆうと頭の上を飛び、冬の風物詩ハマシギが白い面を見せて芝川に連なり、カモたちは、北へ帰り支度の体力の強化のために、餌をしきりについばんでいた。斜面林の下の畑では、“黄色、白色、黒色”のセキレイが勢ぞろいして、ビッグな贈り物。(楠見邦博)

2月28日(日) 荒川村 日野沢谷
参加: 14人 天気: 晴

キジバト アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 前夜からの雨も上がり、絶好の探鳥日和となった。小人数なので全員でベニマシコが見られた。ザゼンソウやセツブンソウも見られて、楽しかった。(林 滋)

2月28日(日) 行田市 ささたま古墳公園
参加: 51人 天気: 曇後晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ バン キジバト ヒバリ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヒレンジャク ジョウビタキ トラツグミ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 県名発祥の地での初めての探鳥会。雨もあがり、静かな朝となった。何に会えるか、期待を込めてスタートしたら、中の山古墳の芝生でトラツグミを全員が観察。つづいてアカハラも。いっきに盛り上がった。さらに前玉神社の森でヒレンジャク。杉の高い梢で、フライキャッチのパフォーマンス。赤色の尾羽根が日に映えて、全員の歓声があがる。古墳をゆっくり巡り、終ってみたら内容の濃い33種。さらに、関口氏のとん汁サービスも全員に。身も心も暖まった大盛会の探鳥会でした。(内藤義雄)



総会のお知らせ

日時 平成5年6月27日(日)
午後1時 受付開始
午後1時30分～2時30分 記念講演
午後2時30分～4時30分 総会
場所 埼玉県自然学習センター 講義室
(北本市高尾188-3 TEL0485-93-2891)
路線バスなどありませんので、申し訳
ありませんが、北本駅西口からタクシーを
ご利用ください。
議題 平成4年度事業と決算報告
平成5年度事業計画と予算案
平成5年度役員選出

臨時探鳥会 総会前の午前中には、一緒に鳥
を見てぶらつきませんか。午前10時までに
駐車場にお集まりください。

記念講演 テーマ未定。今年のゲスト、本部
保護部計画室の高井健慈室長は一級建築
士。会社勤めから野鳥の会に転身して、給
料が大幅にダウンしたと笑っています。ど
んな話を聞かせてくれるでしょうか。

懇親会 午後5時30分ころからは、浦和市の
支部事務局 108号室に場所を移して、恒例
懇親会の予定。こちらだけに参加したい方
も歓迎。ただし、その場合は参加費が少し
高くなるかもしれませんよ。

講演会と探鳥会指導

4月7日(水) 午後5時30分からプリジス
トンサイクル上尾工場の招きを受けて海老原
美夫副支部長が講演。約40人の参加者にバ
ードウォッチングと野鳥についての話をしま
した。4月23日(金) 午前10時から、熊谷市大
麻生地区では、北部市民生協の環境講座の一
環として探鳥会が開催され、バードウォッチ
ング初体験の約20人に、海老原副支部長と佐
久間博文幹事が指導に当たりました。

本部会費額改定についてのご意見は

支部の会費は、会員増と役員会の経営努力
で、今のところ値上げを考えずにすみそうで
す。ですから、普通会员は会費増はありません。
しかし、12年間据え置きだった正会員の
本部分の会費 4,000円を、値上げする議論が
昨年から続けられています。その経過などは
『野鳥』誌でご覧のとおりです。いかがでし
ょうか。ご意見をお聞かせください。

6月の土曜日当番(2時～6時)

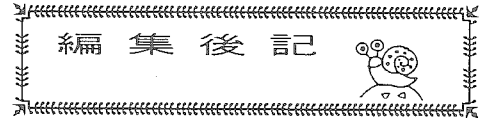
- 5日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)
12日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
19日 羽石幸子 斉藤比佐実(校正)
26日 袋づめの会(1時から)

会員数は

5月1日現在 2,202人です。

活動報告

- 4月3日 普及部会議。
4月10日 野鳥記録委員会。研究部会議。編
集会議。
4月29日 役員会議(司会・岡安征也、バ
ードウィーク野鳥画展・総会・関東ブロッ
ク会議・その他)。



居ながらにして好きなものが買えるシス
テムが進んでいる。通販誌なども工夫されて
いて、結構楽しんで見る事ができる。梅雨時
の探鳥会はムシムシ暑いし、レンズは曇るし、
今ひとつ気がのらなくなる。そんな時に居な
がらにして探鳥会気分が楽しめるスポットが
あります。支部事務局です。ビデオ自慢の人
の作品を鑑賞すれば、出現鳥 100余種。珍鳥
も多数登場します。今日もこれから編集探鳥
会になるかな。(内藤義雄)

『しらこぼと』1993年6月号(第110号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町 107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用